

# 水の 話

FUJI CLEAN NEWS

no.  
173

[特集]

## 宮古島のエコアイランドへの挑戦。

地域資源を活用した離島の新たな価値創造

# 宮古島のエコアイランドへの挑戦。



## 地域資源を活用した離島の新たな価値創造

宮古島は「楽園」と形容される美しい景観で多くの人を魅了する、日本屈指の観光リゾート地です。

しかし一方で、離島という条件から水や食料を島内では供給できない乏しい資源環境に、島民は長年悩まされてきました。

そうした課題にいち早く向き合い、宮古島では2008年「エコアイランド宮古島」を宣言。

島の財産である自然環境を保全するとともに、バイオマス、再生可能エネルギーなど島嶼地域の特性を生かした取り組みが次々と行われています。

循環型社会に向けていち早く動き始めた小さな離島の挑戦が、国内外から注目を集めています。

### 宮古島市DATA

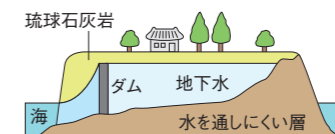
平成28年7月現在

〈人口54,273人 面積204.2km<sup>2</sup>[島嶼地域含む]〉

2005年に平良市、城辺町、伊良部町、下地町、上野村の5市町村が合併して宮古島市が誕生しました。沖縄本島(那覇市)の南西約300キロメートルに位置し、大小6つの島(宮古島、池間島、来間島、伊良部島、下地島、大神島)から成る群島です。山や川のない低くて平坦な台地のため土砂が海に流れ込むことがなく、透明度の高い海にはサンゴ礁や熱帯魚が多く生息。国内外から年間50万人を超える観光客が訪れています。



地下ダム構造図



- 1: 2015年に開通した伊良部大橋。全長3,540メートルで、無料で通行できる日本最長の橋です。
- 2: 友利のあま井は、友利元島遺跡の西側に隣接する自然洞窟の湧き水。降り口から湧き口まで深さは約20メートルあり、上水道が普及する以前は、貴重な水資源となっていました。
- 3: 地下ダム資料館の屋外にある地下ダム水位観測施設。資料館では世界初の大規模地下ダムの建設技術や構造、地下水のメカニズムをわかりやすく解説しています。

## サンゴ礁でできた島の、乏しい水資源環境からの脱却。

### 美しい自然に恵まれながらも、水資源に乏しい宮古島

エメラルドグリーン的大海と真っ青な空、広がるサトウキビ畑と温暖な気候。これが多くの人が抱く宮古島のイメージだと思います。宮古島には貴重な自然が数多く残り、近海には400種以上のサンゴ礁、ラムサール条約に登録された与那覇湾の水鳥、さらに亜熱帯の森に行けば、多種多様な植物やアカショウビン、サンコウチョウなどの希少な鳥類も見ることができ、豊富な自然・景観資源を有しています。

しかし、こうした豊かな自然に恵まれた宮古島は、一方で「水資源の乏しい島」でもありました。これは、島全体がサンゴ礁が隆起してできた透水性の高い琉球石灰岩から成り、雨が

降ってもすぐに土壌に浸透して地下水になってしまうからです。亜熱帯気候のため年間雨量は平均して2,200ミリ以上もあるものの、そのうち約50%が蒸発し、残りの約40%が地下水として流れてしまいます。そのため、上水道が整備される前の宮古島の人々は、地上で水を求めることができないことから洞窟の底にある湧水の井戸(うりがー)を利用していました。うりがーの多くは地下深くにあり、水を汲むために何十段もの石段の上り下りを繰り返す重労働は、女性や子どもたちの仕事となっていました。また山も川もない平坦な宮古島は度々干ばつに悩まされ、さらに四方を海に囲まれていることで台風被害も受けやすい環境のため、日々の暮らしだけでなく、サトウキビ栽培などの農業もさまざまな被害に苦しめられてきたのです。

### 世界でも珍しい地下ダム建設で、島農業が回復

こうした深刻な水不足や干ばつの対策と、安定した農業用水を確保するために建設されたのが「地下ダム」です。地下ダム建設は、1972年の沖縄本土復帰を機に実施された大規模農業用水調査の結果によって、琉球石灰岩の隙間にはスポンジのように地下水が蓄えられていることがわかったことで、計画されました。地中に止水壁をつくり、地下水の流れている帯水層を締め切ることで水を貯めるという大規模な地下ダム構想は世界初であり、入念な調査や建設における技術手法の確立が進められ、1979年度に実験地下ダムとして皆福地下ダムが完成。現在は、世界に例のない大規模地下ダムである砂川地下ダム、福里地下ダムがあり、同規模の地下ダムの新たな建設も進んでいます。

な建設も進んでいます。

地下ダムの完成により島で使える水の量は飛躍的に増え、宮古島の農業も大きく変わりました。「水なし農業」から脱却し、サトウキビだけでなくマンゴーやパッションフルーツなどの果樹栽培や、施設型農業による野菜栽培も可能になりました。また本島と来間島とを結ぶ「来間大橋」は農道橋としても整備されており、地下ダムの水を運ぶための農水管が添架されています。さらに2015年に開通した「伊良部大橋」の橋梁内にも農水管が敷設されました。こうして周辺の島々も水事情が好転したおかげで、農作物の種類や収穫量が格段に増加しています。こうした地下ダム開発の技術は、世界の水に苦しむ多くの地域に、貴重な事例として教授されています。

# 環境保全と資源循環を実現するエコアイランドへ。

## 環境に配慮した島を目指し 「エコアイランド宮古島宣言」

近年、宮古島の生活は、地下ダムによって水資源開発を実現しただけでなく、さまざまなインフラが設備されたことで便利になり豊かさを増しました。しかしその一方で、島の自然環境への負荷が地下水汚染や海洋汚染などの形で現れ始めたことから、自然環境の保全の必要性が高まってきました。また食料やエネルギー資源は、そのほとんどを島外に依存しているため、地産地消による資源循環の仕組みづくりも大きな課題として浮き彫りになりました。そこで市では、地下水の保全や資源循環型社会の構築など環境に配慮し、いつまでも住み続けられる豊かな島づくりを目指して2008年に「エコアイランド宮古島」を宣言。「循環型社会の構築」「環境社会の推進」「産業振興」を3つの柱として環境共生に向けた取り組みをスタートさせました。そして2009年には「環境モデル都市」として全国13都市の一つに選定され、CO<sub>2</sub>排出量を2030年には44%削減、2050年には69%削減を目標に掲げました。市の企画政策部内には「エコアイランド推進課」も設置され、新たな環境モデル地域の構築に向けて動き始めました。

## 美しい自然環境を次代に引き継ぐために

エコアイランドを目指す上で、重要なのが環境保全です。生活に関わる水のほとんどを地下水に頼り、美しい海やサンゴ礁を求めて多くの観光客が訪れる宮古島にとって、水を守ることは島の暮らしと産業を守ることであります。地下ダム建設で水の確保は格段に改善されたものの、宮古島の地下水の硝酸性窒素濃度は1987年頃に8mg/Lまで上昇していたことが明らかになり、社会問題になりました。その主な要因は化成肥料や家畜排泄物、生活排水、事業者排水が考えら

れ、海もまた、生活排水や家畜の排泄物、農地へ散布する化成肥料などの余剰分が流れ出ている状況で、サンゴ礁をはじめとする生物への影響が懸念されています。

これに対処するため、宮古広域圏事務組合が事務局となり、1988年に宮古島地下水水質保全対策協議会を設立、地下水水質の長期モニタリングが開始されました。その後、現在の宮古島市に事務が受け継がれ、硝酸態窒素汚染の原因究明や対策を講じることにより2014年には地下水の硝酸性窒素濃度が約5mg/Lまで低下するなど、大きな改善が見られています。また海域の水質改善のため、農作物の生育に合わせた肥料の散布など農家への適切な周知や、公共下水道や農漁業集落排水への未接続世帯への対応、合併浄化槽の設置にも積極的に取り組んでいます。2012年にラムサール条約登録された与那覇湾やその周辺に生息する野鳥、海岸植物などの保全も新たな課題であり、豊かな環境を未来へと引き継ぐ努力が続けられています。

## 市民一体で取り組む、 再生可能エネルギーの高効率利用

環境保全と並んで重要なのがエネルギー問題です。資源のほとんどを島外からの供給に頼る宮古島が、エネルギー自給率向上のためにいち早く注目したのは、再生可能エネルギーの導入です。2010年には「離島独立型系統新エネルギー導入実証事業費補助金」を活用し、4MWのメガソーラーと蓄電池を導入。その後多くの実証事業を行ってきました。現在では、島の電力需要約52MWのうち、16~19MWを風力・太陽光発電でまかっています。同時に「島嶼型スマートコミュニティ実証事業」として、ITを駆使することで島内電力の需要をコントロールし、エネルギー自給率を高める新た

なエネルギーの需給システムの構築も目指しています。その中の「すまエコプロジェクト(宮古島市全島EMS※実証事業)」では、家庭や事業所にタブレット端末を設置し、使用電力の状況を“見える化”することで電力消費量を減らしたり、使うタイミングを最適化することで省エネを促しています。これは、エネルギーを島全体で上手に使うことで再生可能エネルギーの導入余地を拡大し、最大限効率的に利用しようというもの。エネルギーを“つくる”から“使いこなす”まで取り組むことで、離島における再生エネルギーの可能性を広げています。

※エネルギーマネジメントシステム(Energy Management System)の略称

## 基幹産業を利用した新エネルギーの創出

宮古島ならではの取り組みの一つに、宮古島の基幹作物であるサトウキビを原料として新たなバイオ燃料を製造し、活用する「宮古島バイオエタノールプロジェクト」があります。これは、サトウキビの増産を支援しながら、製糖業の副産物である糖蜜からエタノール燃料を生産し輸送用燃料として活用するものです。宮古島以外でもトウモロコシやジャガイモなどを使ってバイオエタノールの製造を行っている地域はありますが、サトウキビによるバイオエタノール製造で特長的なのが、砂糖を生成する過程で発生する糖蜜、いわばゴミとなるものを原料としている点です。さらにバイオエタノール精製後の蒸留残渣液を肥料や飼料等として活用することで農地に還元するという、サトウキビを活用した循環型社会の構築を目指しています。2011年まで国の1府5省庁連携のプロジェクトとして実証事業が行われていましたが、2012年からはバイオエタノール製造施設を宮古島市が国より譲り受け、ガソリンにバイオエタノールを3%程度添加したE3燃料を島内において一般発売するなど、実用化に向けて動き始めています。



### ■ エコアイランド宮古島宣言

1. 私たちは、島の生活を支えるかけがえのない地下水を守ります。
1. 私たちは、美しい珊瑚礁の海を守ります。
1. 私たちは、みんなの知恵と工夫で、限りある資源とエネルギーを大切にします。
1. 私たちは、ゴミのない地球にやさしい美<sup>かぎ</sup>島宮古島を目指し一人ひとり行動します。
1. 私たちは、よりよい地球環境を取り戻し・守るため、世界の人々とともに考え・行動し、未来へバトンタッチします。
1. 私たちは、緑・海・空を守り、すべての生物がともに生きていける環境づくりのため行動します。

2008年3月31日 宮古島市

- 1: 白い砂浜とエメラルドグリーンが美しい与那覇前浜ビーチ。シーズンにはマリンスポーツを楽しむ多くの観光客が集まります。
- 2: 崎田緑地公園を流れる湧き水。宮古島では今でも街のあちこちで湧き水を見ることができます。
- 3: 宮古島に広がるサトウキビ畑。宮古島のサトウキビ生産量は沖縄県全体の約4割を占めます。
- 4: 城辺にある宮古島メガソーラー実証研究設備。約2万2千枚の太陽光パネルと、風力発電用の風車2基が設置されています。隣接する展望台からは壮大なメガソーラーを眺めることができます。



1

## エコアイランド宮古島のブランド化による地域活性への動き。

### 島に点在するエコ関連施設を観光資源に転換

さまざまな実証実験を積極的に行っている宮古島では、島全体を次世代エネルギーパークと捉え、研究施設をオープンにすることで観光資源化する取り組みにも力を入れています。太陽光発電、風力発電をはじめとする新エネルギー設備やバイオエタノール生産施設、泡盛蒸留粕を利用したメタンガス精製施設など再生エネルギー施設、家畜排泄物を利用したバイオマス実証施設が島中に点在しています。これら新エネルギーをはじめとした次世代エネルギーに関する施設を、宮古島を訪れた人々に見たり触れたりしてもらうことで、宮古島のエネルギー地産地消や環境保全の活動への理解を深めてもらうことを目的としています。また、簡単な実験などを通して自然のエネルギーの仕組みを学ぶことができる「エコアイランド宮古島PR館(エコパーク宮古)」、地下ダムの建設技術や構造、メカニズムをわかりやすく説明する「地下ダム資料館」、壮大な太陽光パネルを一望できる「メガソーラー展望台」、体験宿泊も可能な「エコハウス」など、多彩な関連施設を周遊・体験できるよう基盤整備を図ることで、宮古島が取り組む「エコ」そのものをブランド化することを目指しています。2010年からは、マラソンを通じて宮古島のエコ環境をPRする「エコアイランド宮古島マラソン」がスタートしました。エメラルドグリー

ンの海を眺めながら伊良部大橋を駆け抜けるこのイベントは、2000人以上が参加するなど盛り上がりを見せています。

こうした多方面にわたる活動によって、「宮古島=エコアイランド」という認識は次第に市民にも広がり、活性化にもつながっています。一つひとつの取り組みによって、新しい雇用の創出という、離島が抱えるもう一つの課題の解決にも期待が寄せられています。

### 世界に広がり、未来につながる、エコアイランド

日本では、2011年の東日本大震災を契機に、それまで原子力発電に依存していたエネルギーバランスの見直しが求められるようになりました。そんな中で、日本の本州から離れた小さな島である宮古島は、世界でも類を見ない規模の地下ダムや再生可能エネルギーの活用、地域資源を生かした新エネルギー創造と、今後の日本の方向性のヒントとなる環境・エネルギーのモデル都市へと着実に歩みを進めています。海外からの注目も高く、近年は再生可能エネルギーの活用を模索する国内外の自治体が視察に訪れる例も少なくありません。豊かな自然環境と市民との暮らしの調和が取れたエコアイランドは、世界中から愛される「楽園」に向け、今後も挑戦を続けていきます。



- 1: 狩俣の風力発電設備。3基で年間620万kWhを発電できます。
- 2: エコアイランド宮古島PR館(エコパーク宮古)では、島内のエコ施設の紹介や低炭素システムの構築を目指す取り組みなどをパネルや動画で展示紹介しています。
- 3: サトウキビからエタノールを生成するバイオエタノール製造施設。予約をすれば施設内見学が可能です。
- 4: 宮古島の自然を満喫しながら走る、エコとスポーツを融合したマラソン大会。(写真提供:宮古島市)



[取材協力・写真提供・資料提供]  
宮古島市企画政策部エコアイランド推進課  
宮古島市生活環境部環境衛生課地下水保全係

[参考資料]  
2016年宮古島市勢要覧  
エコアイランド宮古島推進基本計画 平成27年3月  
宮古島市環境モデル都市行動計画(平成26年度～平成30年度)  
宮古島次世代エネルギーパーク パンフレット  
沖縄地域産業の未来(関 満博 編/株式会社新評論 発行)

**雪塩**

宮古島の海の恵みが詰まったパウダーソルト。

「雪塩」は、宮古島の地下海水を汲み上げて作られたパウダー状の塩です。サンゴ礁が隆起してきた宮古島では、島の下にある琉球石灰岩が天然の「ろ過装置」となって不純物を取り除くと同時にサンゴ礁の持つカルシウムが溶け出し、ミネラル豊富な地下水をつくります。地下約20メートルから汲み上げた地下水を原料とした「雪塩」は、通常の製塩法では取り除かれる「にがり」を残して海水の成分バランスを保つように作られました。まろやかな口当たりで、世界食品オリンピックとも称される「モンドセレクション」で3年連続金賞を受賞するなど、世界からも高い評価を得ています。

### 雪塩ミュージアム

沖縄県宮古島市平良狩俣191  
☎0980-72-5667  
🌐 <http://www.yukisio.com/factory.html>  
営業時間/午前9:00～午後6:30(4～9月)  
午前10:00～午後5:00(10～3月)  
定休日/無休 入場無料(ガイド料金無料)

ここで購入できます

雪塩の製造工程をガイド付きで見学できる製塩所です。売店では、「雪塩」はもちろん「雪塩石鹸」「雪塩ちんすこう」など各種製品を直売。売店のガイドに声をかけていただければ、「雪塩」の使い方や宮古島のことなどさまざまな情報を案内してくれます。工場限定商品や甘くてしょっぱい「雪塩ソフトクリーム」もあり、観光客にも人気のスポットです。

## 社長就任のご挨拶



代表取締役社長 木村 秀昭

### 略歴

- 1959年 8月21日生まれ
- 1978年 3月 北海道立名寄工業高校 卒業
- 1980年 3月 道都大学(旧・道都短期大学) 卒業
- 1980年 4月 株式会社ニシムラ 入社
- 1980年 8月 同社 退社
- 1980年 11月 フジクリーン工業株式会社 入社
- 2007年 3月 同社 札幌支店長
- 2009年 3月 同社 東北支店長
- 2013年 3月 同社 東京支店長
- 2013年 7月 同社 執行役員東京支店長
- 2015年 3月 同社 執行役員営業部長
- 2015年 7月 同社 取締役営業部長

このたび、前任の渡辺嘉一の後任としてフジクリーン工業株式会社の代表取締役社長に就任いたしました。私のような未熟な者が、この大役を果たせるか身のひきしまる思いでおりましたが、皆さまのご支援のもと、会社発展のために全力で尽くしていきたいと固く決心をいたしました。

当社は創業から50年以上が経ちましたが、日々、浄化槽メーカーとして研究を重ね、技術力や商品力の向上に力を尽くしてまいりました。お陰様で現在は、浄化槽のリーディングカンパニーにまで成長することができ、これもひとえに、皆さまの多大なるご支援、ご協力の賜物と深く感謝しております。

今、我々の国内市場は、少子高齢化などによる業界規模の縮小により、厳しい時代を迎えております。しかし私は、渡辺前社長の堅実な経営方針を引き継ぐとともに、営業出身という経験を生かし、一層の浄化槽の普及・拡大に貢献できるよう、積極的にチャレンジしてまいります。また、グローバル化に対応した海外展開にも力を注ぎ、世界中から愛される企業を目指していきます。

今後とも、皆さまのご指導ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

2016年7月 木村 秀昭



## 塗料変更や塗料密着性の向上により、 電磁ブロワの塗装はがれを改善しました。



以前より、離島や海岸沿いにおきまして、フジクリーンの電磁ブロワの塗装が大きくはがれるというご指摘を受けることがありました。調査の結果、この原因は物理的・化学的な要因で塗膜に傷が入り、そこから水分が浸入することにより、その水分の膨張などにより、塗膜を地金のアルミから剥離させると同時にアルミを腐食させていたことがわかりました。

そこでフジクリーンでは、塗膜の傷やアルミの腐食から発生する塗装はがれを防止するため、塗装仕様を刷新しました。これにより旧仕様と比べて塗料の密着性、耐久性が大幅に向上しました。

### 新塗装仕様のポイント

#### 1. 塗膜の傷に対する改善

- アルミへの密着性や、融雪剤などに対する耐性の高い塗料に変更
- アルミ成形時に付着する離型剤(油)を洗浄作用の強い脱脂液に変更(塗料密着性の向上)

#### 2. アルミの腐食に対する改善

- 防錆効果の高いアルミの表面皮膜に変更

## 「環境配慮型浄化槽」のラインアップ拡充。 フジクリーンCEN型35~50人槽を新たに追加しました。

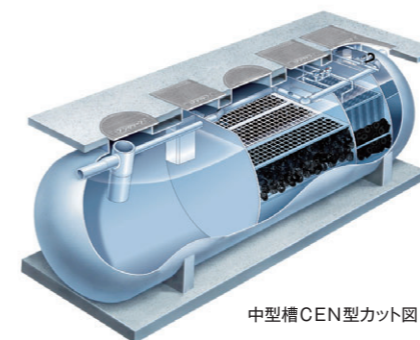
環境性能に優れた浄化槽の整備を重点的に行うため、従来の「低炭素社会対応型浄化槽整備推進事業」に代わり、平成28年度から新たに「環境配慮・防災まちづくり浄化槽整備推進事業」がスタートしました。市町村が「環境配慮型浄化槽」を用いてこの事業を実施すると、国庫補助率が1/3から1/2となり、自治体の負担が軽減されます。「環境配慮型浄化槽」の性能要件は、消費電力の値が従来の省エネ基準から約10%低減されたことに加え、4つの環境性能(さらに消費電力10%低減、コンパクト化など)のうちいずれか1つ以上を満たさなければなりません。フジクリーンの小型浄化槽(CA型、CENeco型、

CEN型、CRX型)はすべてこの基準に適合しています。中型浄化槽に関しては、通常型であるCE型・CSLII型は全人槽で基準に適合していますが、BOD10mg/L以下であるCEN型は30人槽までしか適合していませんでした。

そこで今回、中型浄化槽CEN型の35~50人槽を、省エネタイプの電磁ブロワを2台並列させることで、「環境配慮型浄化槽」適合機種とのラインアップに加えました。また、8月に新発売した中型浄化槽CA型も、電磁ブロワの2台並列によって「環境配慮型浄化槽」適合機種となります。

■ 中型槽CEN型 環境配慮型浄化槽 適合基準対応表

人槽	消費電力基準値	ブロワ機種	消費電力		環境配慮型基準適合
			50Hz	60Hz	
35人槽	344.7W	EcoMac200	260W	300W	○
		EcoMac200			
40人槽	393.3W	EcoMac200	360W	380W	○
		EcoMac300			
45人槽	441.9W	EcoMac250	400W	430W	○
		EcoMac300			
50人槽	490.5W	EcoMac250	400W	430W	○
		EcoMac300			



中型槽CEN型カット図

※ 環境配慮型浄化槽の適合機種一覧は(一社)浄化槽システム協会 HPに掲載されています。  
http://www.jsa02.or.jp/05koho/index.html

Web  
サービス

## 「水泥新聞」の バックナンバーページを開設しました。

毎月発行の「水泥(みずどろ)新聞」では、フジクリーン製品の紹介や開発にまつわるエピソード、浄化槽業界から水環境改善に関する情報等をお届けし、大変ご好評をいただいています。このたび、創刊から最新号までをホームページからご覧いただけるよう、バックナンバーページを開設しました。ぜひご覧ください。また、維持管理ネットワークにご登録いただき、ご希望いただければメール配信もいたしますので、こちらもぜひご利用ください。

トップページ ▶ 私達の取り組み ▶ 水泥新聞  
でアクセスください。

[http://www.fujiclean.co.jp/fujiclean/water\\_mud.html](http://www.fujiclean.co.jp/fujiclean/water_mud.html)



## レジコンマンホールの交換について公開しました。 亀裂・破損には、お早めの対応をお願いします。

古くなったレジンコンクリート(レジコン)マンホールは、わずかな亀裂でも放置しておくとし進行し、最悪の場合は破損してしまうことがあります。もし、マンホールの亀裂や表面の白化が見られる場合は、破損した場合の危険性をお施主様にご説明いただき、交換をお勧めください。交換用のマンホールについては、フジクリーンホームページでお調べいただけるように新旧マンホール互換表を公開しています。ご参考ください。



Event

## 「日本発! 暮らしを支える底力 下水道展 '16名古屋」 に初出展しました。

2016年7月26日から29日までの4日間、愛知県のポートメッセなごにて『下水道展 '16名古屋』が開催され、下水道処理関連企業など約300社が出展しました。

フジクリーンも初めて下水道展に出展し、「下水道クイックプロジェクト 工場製作型極小規模処理施設FGU型」をご紹介しました。ブースには多くの方にご訪問いただき、関心の高さを感じることができました。また7月27日には、出展者プレゼンテーションとして、『産業廃水除害処理ユニット』および『下水道クイックプロジェクト 工場製作型極小規模処理施設「FGU型」』についてご紹介しました。

下水道展の4日間での来場者数は、35,393人にのぼり、業界関係者だけでなく多く的一般の方々に対しても広く下水道事業への理解を深めたイベントとなりました。



## 「浄化槽フォーラム in 霞ヶ浦」が開催されました。 主催: 浄化槽フォーラム※・環境省

2016年7月16日、茨城県つくば市「つくば国際会議場」において、NPOや市民の方々を対象に「浄化槽フォーラム in 霞ヶ浦」が開催されました。これは、生活排水と河川や湖沼に棲む生き物との関係、ウイルスの話などを通じて水環境保全について考えるシンポジウムです。

今回のシンポジウムは、「浄化槽による公衆衛生向上と生態系保全 ~ 遊べる河川、泳げる霞ヶ浦を目指して~」をテーマに、浄化槽についての認知度を高めると同時に、生活排水対策や公衆衛生向上、生態系保全の関わりなどを通じて浄化槽への理解を深めていただこうと開催されました。当日は、身近な水環境や自然環境の保全に関心を持つ市民の方々に参加されました。フジクリーンからも閉鎖性水域の水質改善に効果を発揮する「窒素・リン除去型浄化槽CRX型」の実物大カットモデルを展示し、多くの方々にご覧いただきました。



※「浄化槽フォーラム」は、水に関する環境保全活動をより活性化させるとともに、NPO等関係者の全国的な情報交換のネットワーク作りを通じて、浄化槽の普及促進を通じた水環境の保全を図るため、NPOをはじめとする関係者が参集して、2007年5月に環境省により設立された組織です。

もっと  
motto!  
広げよう

水環境をきれいに  
する取り組み

名古屋市  
NPO法人  
堀川まちネット



川口 正秀さん(右)  
中島 佳郎さん(中)  
池田 豊隆さん(左)

## 堀川の水環境を守りながら、 若い世代へ文化や賑わいを継承していきたい。



人工干潟でのヨシ原の実験

堀川護岸と宮の渡し公園の清掃

写真提供：NPO法人堀川まちネット

堀川まちネットは、1985年からミニコミ紙を発行する「あつたつ」と、堀川まつりの復興を目的とした「堀川まつり実行委員会」とが統合し、2004年に設立したNPO法人です。以来、広報誌の発行から堀川まつりの開催、堀川の浄化活動など、まちづくりや文化継承、環境保全を目指した活動を行っています。

幅広い活動の中で軸となっているのが、近隣住民や堀川で活動する他団体とともに「堀川一斉大そうじ」です。これは、堀川まつり(熱田天王祭)を復活させた際、まきわら船を浮かべるために堀川清掃を行ったことがきっかけとなり、1999年からスタートし、現在も年2回行われています。現在は、単独による月に1度の清掃活動も加わり、年間1,000人以上が参加しています。また近年は、「堀川清流プロジェクト」として、雨の日には家庭から洗剤や油を流さない呼びかけを市民に行っています。堀川流域では合流式下水道を利用しているため、一定量以上の雨

が降ると汚水の一部を含んだ雨水が直接川へ流れ出てしまうのですが、こうした現状はほとんど知られていません。より多くの人に知ってもらうために、清掃活動の参加者に堀川の成り立ちや、汚れの仕組みなどを話す機会を設けたり、学校での環境教育にも積極的に取り組んでいます。

さらに2008年からは宮の渡し公園の水辺にヨシの植栽を始めました。最初はイカダの上に植えるなど試行錯誤を繰り返しましたが、干潟を想定してコンクリート上に砂を敷いて植えたところ、見事に根をつけました。周辺のヘドロがなくなったり総窒素が低減するなど、想像以上の浄化作用を発揮しています。今後は、ヨシ原に自然観察路をつくり、水辺のカニや魚と触れ合える場にするなど新たな展開を計画しています。堀川を通じて、美しい水環境だけでなく、そこに生まれる文化や街の賑わいを大切に守り、未来の子どもたちにつなげていきたいと考えています。

## 美しい水を守る フジグリーン工業株式会社

本社 名古屋市千種区今池四丁目1番4号 〒464-8613 TEL(052)733-0325 <http://www.fujiclean.co.jp>

札幌支店 (011)882-1222	茨城営業所 (029)839-2271	岐阜営業所 (058)274-1011	佐賀営業所 (0952)31-9151
東北支店 (022)212-3339	宇都宮営業所 (028)625-4650	静岡営業所 (054)286-4145	熊本営業所 (096)388-3571
東京支店 (03)3288-4511	群馬営業所 (027)327-5611	四日市営業所 (059)350-0788	大分営業所 (097)558-5135
名古屋支店 (052)733-0250	埼玉営業所 (048)620-1424	和歌山営業所 (073)422-3634	宮崎営業所 (0985)32-3064
大阪支店 (06)6396-6166	千葉営業所 (043)206-5171	広島営業所 (082)843-3315	鹿児島営業所 (099)257-3501
福岡支店 (092)441-0222	新潟営業所 (025)271-8668	高松営業所 (087)815-0682	鹿屋営業所 (0994)43-4437
盛岡営業所 (019)604-2527	山梨営業所 (055)275-9300	松山営業所 (089)967-6123	沖縄営業所 (098)862-9533
郡山営業所 (024)944-7780	松本営業所 (0263)27-2080	高知営業所 (088)837-8021	



発行 2016年10月1日  
フジグリーン工業株式会社「水の話」編集室